

2013 ENVIRONMENT NEWSPAPER

環境 2013 新聞

神奈川新聞 THE KANAGAWA

(平成25年) 2013.6.17(月)

持続可能な社会の構築へ

環境月間を機に、身近なところからできる「3R」の実践をしていきましょう

私たちが生きている地球は、さまざまな環境問題を抱えています。温暖化、温室効果ガス、ヒートアイランド現象、森林破壊、水質汚染、大量廃棄物…。数多くのネガティブな言葉が挙げられています。もちろん、これらの問題解決に手をこまねているわけではありません。わが国においては市民、企業・団体、国・自治体などが一体となった環境活動として、ごみ減量のキーワードとなっているリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)を推進する「3R(スリーアール)」の取り組みが着実に進められています。そうした環境活動にはゴールはありません。地球人である私たちは持続可能な社会を目指す活動をやるわけにはいかないのです。さらには、誰もが身近なところから、率先して環境問題の解決に取り組んでいける「社会環境」を創り出すことも大事なのではないのでしょうか。6月の「環境月間」に合わせて企画した環境新聞では、県内の企業・団体・自治体の「3R」の取り組みを中心に多彩な環境活動を紹介しています。私たち一人一人が今、何をしなければならぬのか、何ができるのかを考え、行動につなげていくためのヒントとなれば幸いです。

1 メッセージ

- 黒岩 祐治 神奈川県知事
林 文子 横浜市長
阿部 孝夫 川崎市長
加山 俊夫 相模原市長

2 日本容器包装リサイクル協会

- 容器包装リサイクルを推進
容器リサイクル法の実態と成果
家庭でできる工夫とは

3 企業・団体の取り組み

- 富士通ゼネラル 上質な快適さと高い省エネをもたらしエアコンを提案
JA横浜 横浜の農地が育む安全・安心な“旬”をお届け
カナエル 子どもたちの未来のためにさまざまな環境活動を展開
イオンリテール 「イオンチアーズクラブ」が子どもの育成をお手伝い
横浜市資源循環局 「ヨコハマ3R夢プラン」を推進

4 企業・団体の取り組み

- 川崎市 環境局 9月2日からごみの収集体制変更
リコージャパン “あす”を担う子どもたちの環境意識を育む
日立ソリューションズ・ビジネス ワークスタイル改革を推進し環境に配慮した製品を提供
神奈川県のJA 農業を通じた環境教育などの取り組み

5 企業・団体の取り組み

- 太陽油脂 「横浜FC」と環境に配慮した石けん作り教室開催
日本たばこ産業横浜支店 横浜市の「3R活動優良事業所」に認定
川崎アセリア 古着の回収を通じて資源の再利用に貢献
松尾工務店 クリーンな地球環境の創出に貢献
京浜蓄電池工業 蓄エネと省エネでスマートエネルギーの活用促進

環境月間

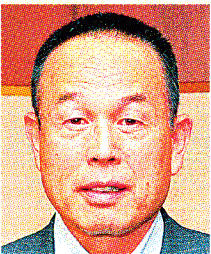
環境庁(現・環境省)の提唱により、1973年度から90年度にかけて実施された、6月5日を初日とする「環境週間」が前身、91年度からは、6月の1カ月間を「環境月間」とし、環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするためのさまざまな行事が行われている。

企画・制作/神奈川新聞社クロスメディア営業局

地球温暖化対策への一層の取り組み

相模原市長 加山 俊夫

地球温暖化問題は、異常気象や農業被害、生態系の変化など、私たちの生活にさまざまな面で影響を与えています。また、国内のエネルギー事情は、原子力発電所の停止などによりエネルギーコストが増加するなど、厳しい状況が続いています。こうした状況の中、相模原市では、太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの利用促進を図るため、住宅用の太陽光発電システム等設置補助を長年にわたり実施するとともに、事業者との協働でメガソーラーの導入に向けた取り組みを進めています。また、本年3月に市民や事業者、団体が中心となり設立した「さがみはら地球温暖化対策協議会」と連携しながら、幅広く普及啓発活動を展開するとともに、本年4月に施行した「地球温暖化対策推進条例」に基づき、中小規模事業者に対して、空調設備の高効率化、LED照明や太陽光発電設備の導入等を促進する新たな支援制度を設けるなど、より一層の対策の強化を図ることとしています。地球温暖化をはじめとする環境問題に対応していくには、私たち一人一人のライフスタイルやビジネススタイルを見直していくことが重要です。市民の皆さまとともに「環境共生都市 さがみはら」の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。



持続可能な資源循環型のまちを目指して

川崎市長 阿部 孝夫

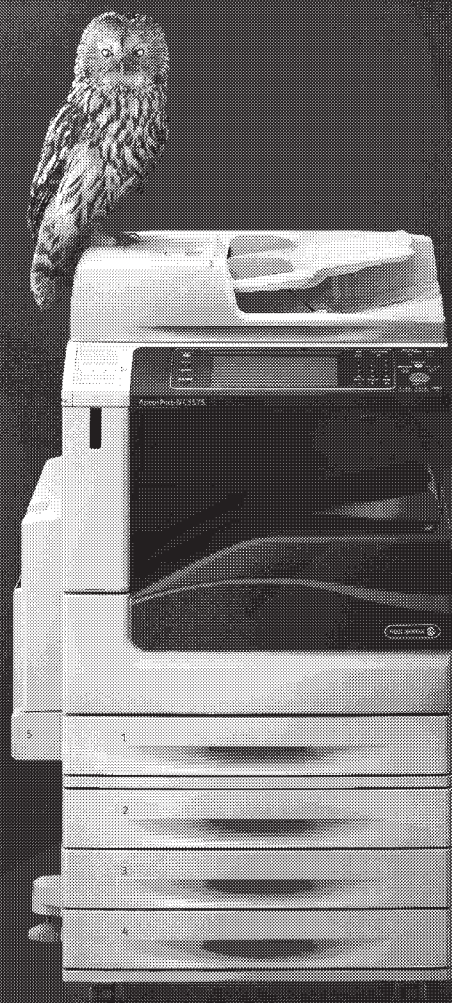
川崎市は、社会情勢が大きく変化する中、かつての「ごみは、集めて燃やして埋める」といった時代から、地球の大切な資源を次世代へ引き継ぐことを重視した資源循環型の廃棄物処理へと大きく転換を図ってまいりました。平成25年度は、こうした取り組みをさらに進める重要な節目の年と位置付けています。昭和の時代、わずか3分別であった収集体制について、平成以降は急速に分別を拡大し、これまでのミックスペーパーに加えて、今年9月からは、プラスチック製容器包装の分別収集の全市展開を図るとともに、普通ごみの収集回数を週3回から週2回に変更し、8分別9品目の収集体制を確立します。こうした取り組みによる「焼却ごみ量の削減」「CO2の削減」「コストの削減」といった効果を期待しています。今後も、地球環境にやさしい持続可能な資源循環型のまちづくりを進めてまいります。



美しい環境を守り後世に引き継ぐのは、私たち一人一人の行動から

横浜市長 林 文子

緑が目に深まる季節となりました。横浜は、新たな産業や文化が生まれる国際都市として発展してきた街ですが、少し足をのばすと、谷戸があり、森があり、四季折々に自然の営みに触れることができます。この美しい環境を守り、子どもたちに引き継いでいくため、私たち一人一人ができることに、取り組みたいですね。この「環境月間」を機に、環境問題にいま一度意識を向けませんか。プラスチック製容器包装、古紙などの資源物の分別・リサイクルやリユースの取り組みは、生活の中に随分浸透してきました。マイバッグなどを持ち歩くことで不要なレジ袋をもらわない、食べ残しをしないなど、ごみを発生させない「リデュース」に力を入れることも、とても大切なことだと思います。私たちの少しの気遣いが、ごみや温室効果ガスの削減につながります。国から「環境未来都市」に選定された横浜は、環境問題に力を注ぐことはもちろん、超高齢化への対応、文化芸術の力によるにぎわいの創出と経済振興を進めています。横浜ならではの魅力と活力あふれる豊かな都市生活の実現を目指してまいります。



節電する複合機に目をつけました。

新しいApeosPortシリーズには、環境性能をさらに高める独自のテクノロジーが搭載されています。「スマート節電技術」は、複合機を①原稿読み取り装置、②操作パネル、③出力装置、④コントローラーの四つに分け、使用する機能に応じて必要な部分だけ通電。省電力およびCO2排出量の低減に貢献します。また、スリープモードからの高速復帰を可能にするIHフェーザーの改善により、出力装置を3.9秒で起動、利用者の利便性を損なうことなく節電効果を高めることができます。さらに、独自の人感センサー技術「Smart WelcomEyes」を標準搭載。文字通り、複合機に目をつけました。二つのセンサーが、利用者の接近を自動的に検知し、操作パネルを2秒で起動。スリープモードからの復帰時間中も作業の設定を開始でき、待ち時間をより感じさせない操作性を実現しています。環境配慮を徹底しながらも、ユーザーの使い勝手を第一に考える。それが、富士ゼロックスの目指すテクノロジーの姿です。

※ コピー・印刷時、ApeosPort-IV C3375/C2275の場合。(ApeosPort-IV C4475は10.9秒、ApeosPort-IV C5575は11.9秒)

複合機から新しいオフィスを考える。 ApeosPort-IV C5575/C4475/C3375/C2275